

2021年3月期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2021年5月14日

注意事項

2017年4月1日に株式会社東芝からメモリ事業を会社分割し（旧）東芝メモリ株式会社（以下「旧TMC」）が発足しました。2018年6月1日にBain Capitalを軸とする企業コンソーシアムにより組成される株式会社Pangea（以下「Pangea」または「新TMC」）が旧TMCを買収したのち、2018年8月1日に新TMCが旧TMCを吸収合併し、社名は東芝メモリ株式会社となりました。また、2019年3月1日に単独株式移転により東芝メモリ株式会社を完全子会社とする東芝メモリホールディングス株式会社（以下、「TMCHD」）を設立しました。2019年10月1日に当社はキオクシアホールディングス株式会社に社名変更しました。

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2021年3月期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

業績概要¹

[億円]	21年3月期 3Q	21年3月期 4Q	対前四半期	20年3月期	21年3月期	対前年度
	売上高	2,872	2,947	+75	9,872	11,785
営業利益	▲77	▲202	▲125	▲1,731	66	+1,797
マージン	▲3%	▲7%	▲4pt	▲18%	1%	+18pt
当期純利益	▲132	▲210	▲78	▲1,667	▲245	+1,422
マージン	▲5%	▲7%	▲3pt	▲17%	▲2%	+15pt

補足情報

減価償却費 ²	1,074	1,096	+22	4,117	4,256	+139
PPA影響 ³	▲276	▲269	+7	▲1,128	▲1,091	+37
法人税等費用	▲59	▲126	▲67	▲728	▲149	+579

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第4四半期におけるEBITDAは、営業利益▲202億円に減価償却費1,096億円を加算した894億円となりました。当連結会計年度におけるEBITDAは、営業利益66億円に減価償却費4,256億円を加算した4,322億円となりました
3. Pangealによる旧TMCの買収と台湾・LITE-ONテクノロジー社のSSD事業買収に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額です。営業利益からPPA影響を除外したものが、当社グループの恒常的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第4

四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益▲202億円からPPA影響▲269億円を除外した67億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益▲210億円からPPA影響▲269億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて▲23億円となりました。当連結会計年度におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益66億円からPPA影響▲1,091億円を除外した1,157億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益▲245億円からPPA影響▲1,091億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて516億円となりました。

ハイライト (1/2)

2021年3月期通期業績

- 継続して拡大するNAND型フラッシュメモリ需要に加え、コロナ禍における新しい生活様式に対応する在宅勤務やオンライン学習、ビデオストリーミングサービス等の普及による需要取り込みや高速通信規格「5G」の拡大等により、売上収益は前年同期比+19%と市場伸長率並みの増収を達成
- BiCS FLASH™第4世代への生産切り替えによる生産効率向上や販管費コントロールなどコスト改善の結果、営業利益は大幅に改善し黒字に転換

足元の実績及び動向

	21年3月期 3Q	21年3月期 4Q
出荷量 ^{1,2} (QoQ)	1桁%台前半の 増加	1桁%台半ばの 増加
販売単価 ¹ (¥, QoQ)	1桁%台後半の 下落	1桁%台後半の 下落

1. 記憶容量ベース

2. Solid State Storage Technology Corporation社のSSDに
使用された第三者のNAND型フラッシュメモリを含まず

- SSD向け売上高増加により前四半期比で増収も、IFRSに基づく固定資産税94億円の一括計上もあり、営業損失は拡大
- スマートフォン向け出荷量は季節性要因もあり減少するも、データセンターSSD及びクライアントSSD向け出荷量が大きく増加し、総出荷量は増加
- 需給環境の改善を受けて、販売単価の下落幅は若干縮小

ハイライト (2/2)

製品開発・技術開発

- 第6世代となる162層3次元フラッシュメモリ技術を開発。先進的なメモリホールアレイ構造や Circuit Under Array CMOS配置技術を採用。

四日市工場 第7製造棟

- 第6世代3次元フラッシュメモリの生産にも対応する新製造棟（Y7棟）の建設を開始。第1期分の竣工は、2022年春の予定

市場動向及び見通し

- 在宅勤務やオンライン学習等の普及拡大に伴い、データセンターSSD、クライアントSSDの需要は高止まりが継続、高速通信規格「5G」の普及によりスマートフォンの需要も中期的には増加傾向、さらに、エンタープライズSSDの需要も回復の兆しが見られており、今年後半にかけてNAND市場の需給バランスの改善が継続するという見方が一般的
- NAND市場の中長期的な成長トレンドについての市場の見方に大きな変化はみられていない
- 次世代製品への移行を通じて、過去のトレンドに沿った製造コスト低減を継続するとともに、短期的な下振れ局面に対しては販管費のコントロールに努める

KIOXIA